

平成 27 年 9 月 27 日発行

大町山岳博物館友の会 第 166 号

ゆきつばき通信



烏帽子の会

活動報告 藤尾の観音様⇒中の貝⇒大カエデ⇒カミツレの湯

《月日》5月30日(土) 《天気》晴れ 《参加者》15名

《コース状況：その他周辺情報》

総会を兼ねた例会のため比較的短時間で誰でも参加し易い企画にした。大町市八坂藤尾「覚音寺」～池田町広津寺間「カミツレの湯」は標高700～800m、約5kmの緩やかなアップダウンを繰り返し、森林の中を散策気分でウォーキング出来るコースである。

藤尾山「覚音寺」は、平安時代末期に仁科盛家が再興している。本尊、千手観音菩薩立像（平安時代）、両脇にひかえる持国天立像（鎌倉時代）・多聞天立像（鎌倉時代）が安置されている（いずれも重要文化財）。この時は、善光寺御開帳に併せ県信濃美術館（長野市）にお出掛けされお留守だった。

「覚音寺」から600m戻ると大町⇄池田広津。日野、中之貝、寺間方面の分岐点となる。分岐点を下ると広津方面が見えてくる。高照山を頂点に日野地区が眼下に見える。下りきった右斜面に流れ出している沢は「北林沢」である。林道中貝線が寺間まで山林の中を走っている。中之貝集落入口に「まちが沢」がある。



寺間地区に入るとカミツレ研究所に関してカミツレの栽培が盛んである。オオカエデの辺りまで白いカミツレの花は今が盛りと咲いていた。

《感想》

烏帽子の会OBの方々から「烏帽子の会が今後もますます発展されますように・・・」と

お便りを頂きました。

当日は、天気にも恵まれホッとしました。のんびりと木漏れ日の中、林道を歩きながら山談議、山道での地元の方と交流、カミツレ畑脇でカモシカに出逢う等して、大峯高原オオカエデに着きました。残雪の北アルプス、北信の山々が見え山好きな会員には嬉しいひと時でした。



《コースタイム》

9:10 山博駐車場出発⇒9:20 覚音寺着・準備体操 9:30 発⇒日野入口⇒中之具⇒寺間⇒大峰高原オオカエデ⇒12:00 展望台着(焼き肉・昼食・散策) 13:30 発⇒カミツレの宿 八寿荘(入浴・平成27年度総会) 15:30 発⇒15:50 山岳博物館着・解散 博物館に挨拶

活動報告 八方尾根 散策

《月日》8月22日(土) [7月例会が延び8月に実施]

《天気》曇り・雨 《参加者》6名

曇空の中大町を出発し、黒菱に着く頃には雨が降り出しました。リフトに乗る前にかっぱを着て出発。周りの景色は見えませんでしたがお花はたくさん咲いていました。

泊りの山行の予定が急遽八方池になってしまい、参加して下さる方がいなかったらどうしようかと思いましたが、なんとか6名で雨の中でしたが、ゆっくりとお花を見ながらのトレッキングを楽しむことができました。

八方の固有種4種 ハッポウワレモコウ・ハッポウウスユキソウ・ハッポウアザミ・ハッポウタカネセンブリ を探そうと言って歩き始めましたが、最後ハッポウタカネセンブリが見当たらず帰りのリフトの前の最後の休憩の時に、あれっ？これじゃない？と見つけることができました。予想外に小さくブルーのかわいい花でした。一度見



つけてしまうとリフトに乗りながら足元にいっぱい咲いているのを見つけることができました。雨には降られましたがお花を楽しむにはちょうどいい天候だったのかもかもしれません。

《コースタイム》

7:30 大町市役所～8:30 黒菱駐車場～リフト乗り継ぎ～9:07 八方山荘 9:15 出発～10:19 八方ケルン昼食～11:18 出発～13:12 黒菱駐車場

活動報告 御飯岳(2161m) 登山

《月日》9月20日(日) 《天気》晴れ 《参加者》10名

烏帽子の会9月例会は9月20日に高山村に位置する御飯岳(おめしだけ)登山が催された。中野市の方角から見ると“御飯”を盛った様に見えることからその名がついたといわれている。

須坂長野東ICを経て登山口である毛無峠まで一直線、9:50に登山開始。ガスの中、厳しい風にさらされ前途多難な心境でまず毛無山頂上へ向かう。

途中の道は2箇所ほど難所があったが、その他ははびこった笹が良く刈り取られ、気持ち良く歩けた。花は少ない時期ではあったが可憐に咲くリンドウなど幾つかの花には巡り会えた。

途中前御飯岳(まえおめし)頂上を通り越して、登り始めてちょうど2時間、11:50に御飯岳頂上に到着。頂上では期待した360度の絶景はたなびく雲のために見る事が出来なかったが、志賀高原・横手山の頂上は顔を出してくれた。期待した北信5山(飯綱山・斑尾山・妙高山・戸隠山・黒姫山)や北アルプスの姿は臨む事が出来なかったが、頂上では暖かい陽射しに恵まれ、楽しい昼食で盛り上がった。

12:30に下山開始。登る時のガスもかなり晴れて、展望がかなり利くようになって来た中を快調に進む。登りでは全く姿を現してくれなかった御飯岳(前御飯)の姿もくっきりと見えるようになり、遠くには浅間山・妙義山方向の展望が開けた。

毛無峠登山口へは14:00に到着し、蕨温泉「ふれあいの湯」にてゆっくりと疲れを癒し、山の内村JAによって沢山の果物を買って帰り路へ。



ともに幹事役を勤められたMさんOさんから下記の感想が届いており、ご披露します。

Mさん「変化に富んだ山でとても楽しかったです。登りはじめにガスと強風で少し心配された天気も次第に回復し、暖かい陽射しになり、眺めもだんだんと開け最高の登山となりました。」

Oさん「天候も次第に恵まれ、毛無山に着いた時は視界が開け、浅間山の煙、破風（はふう）岳も見る事が出来感激でした。最初のあまりの寒さに驚きましたが、毛無山・御飯岳と登るにつれ暖かくなりほっとしました。道すがらエゾリンドウの花がきれいで、またクロマメの大粒の実を食べながらの楽しい山歩きとなりました。」

「 樹林帯 抜けて頂(いただき) 天高し 」



《コースタイム》

安曇野市明科支所 7:40⇒麻績 I C⇒須坂長野東 I C⇒9:20 登山口 9:50→10:10 毛無山頂→前御飯岳（まえおめし）頂上→11:50 御飯岳頂上 12:30→14:00 登山口⇒17:20 安曇野市明科支所

烏帽子の会の次回例会は11月3日に「木曾川源流を歩く」を予定しています。なお、下見によって変更となる場合があります。

花めぐり紀行

奥裾花自然園をめぐる

開催日：平成27年5月23日（土） 参加者5名

奥裾花自然園（長野県 長野市）は、鬼無里地区の鬼女・紅葉の伝説などで知られる山里にあります。園内は、ブナ林に囲まれ、流路または水の停滞する場所や池があ



り、そこにミズバショウの生育が多くみられました。

見ごろは、ちょっと早い感じでしたが、ほかにもミヤマスマレ、スマレサイシン、タチツボスマレ、ナエバキスマレ、イカリソウ、ルイヨウショウマ、エンレイソウ、イワカガミ、サンカヨウ、ニリンソウ、オオバクロモジ、オオマメノキ、ムラサキヤシオツツジ、ハウチワカエ

デ、ウリハダカエデなどの開花をみることができました。

園内から駐車場までは、徒歩で戻りましたが、参加者の目は植物観察時の優しい眼差しから、するどい眼光へとかわり、嗅覚もつかって山菜へと目を向けていました。もちろん、採取禁止の場所ですので、みるだけに留めておきました。



ツルシキミの果実



ニリンソウ

ヤマユリ～山梨県身延町北川長塩集落をめぐる

開催日：平成27年7月13日（月） 参加者：6名

ヤマユリ自生地（旧下部町）は、長塩集落の急崖の一画（保存地区）にありました。事前のリサーチでは、200株ほどが自生するとのことでしたが、開花は30～40株ほどでした。それでもこの光景は驚愕でした。それは長野県内では、2014年に見直しを実





吸蜜に訪れたダイミョウセセリ

施した長野県レッドリストにおいても依然として、準絶滅危惧に位置づけられ、指定希少野生動植物として、県の条例により保護されるほど危惧されている植物が、これだけまとまって自生しているのが奇跡的だからです。山梨県においても、おそらく長塩集落以外には見られないと思われ、この度の観察を通して、改めて草原環境を維持することが如何に重要であるのかを感じました。

入笠湿原と入笠山をめぐる

開催日：平成 27 年 9 月 20 日（日） 参加者：4 名



当日は、交通規制があり、目的地を急ぎよ、阿原湿原から入笠山へと変更しましたが、天候に恵まれ、楽しく散策することができました。

ゴンドラ山頂駅を出発して、15分ほどで入笠湿原に到着しました。湿原では、草紅葉による秋の景色が広がるなか、エゾリンドウやウメバチソウが咲いていました。同行していただいた山博学芸員からは、エゾリンドウの訪花昆虫や性成熟の時間差によって自家受粉を避けていること、マルハナバチの主専攻により花粉が運ばれていることなどを聞きながら、入笠山山頂を目指しました。山頂では、360度の景色が広がり、有意義な一日となりました。

本サークルのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで。後日、代表の宮澤陽美きよみさんからご本人にご連絡いたします。



エゾリンドウ



ウメバチソウ

山岳文化研究会

友の会サークルのひとつとして平成 26 年度に発足した「山岳文化研究会」（代表・宮澤洋介）は、現在 11 名の会員で活動を行っています。このサークルは、山岳文化史に興味・関心を寄せる友の会会員が集まり、登山史を含め、北アルプスとその山麓周辺の歴史や民俗などについて、相互に研究を重ねる場です。定期的に会合を持ちながら、研究テーマにもとづいた調査研究活動を行っています。

本年度の活動の中間報告は、下記のとおりです。

なお、友の会会員以外の方でも希望者は一般参加者として定例会などの活動に参加いただけますので、ぜひ、興味・関心のある方をお誘いいただいております。お気軽にご参加ください。

【本年度の活動内容】

1 定例会

3 ヶ月に 1 回程度、定期的に会合を持ち、具体的な各活動について報告・説明を行い、会員相互で研究を深めています。

- (1) 第 1 回… ○期日： 5 月 14 日開催
- (2) 第 2 回… ○期日： 8 月 6 日開催
- (3) 第 3 回… ○期日： 11 月開催予定
- (4) 第 4 回… ○期日： 2 月開催予定

(毎回 場所：山岳博物館 宿直室、時間：午後 6 時～)

2 研究テーマ「後立山連峰周辺における近代登山史の文献調査」(27 年度～)

黒部川側からの後立山連峰周辺山域、また、後立山連峰南部地域を中心とした山域における大正時代から昭和 30 年代までの登山・登攀記録を中心とした文献資料について調査を行い、それら文献資料を収録する山岳博物館発行の書籍編集に協力しています。

○書 名：『北アルプス登山史資料 3

—黒部川側からの登山史・後立山南部地域登山史—』(仮称)

○発行日：平成 29 年 3 月(予定)

そのほか、年1回、山岳文化史にかかわるフィールドを現地見学するなどの研修会を実施して、会全体として研鑽の機会を設けています。また、年間を通じて開催される山岳博物館と友の会の共催事業や山岳博物館主催事業のうち、山岳文化史にかかわ



る催しについて、各会員が自主的に参加しています。

(サークル事務局担当：

清水・関)

『北アルプス登山史資料』続編発行に向けて、文献資料の調査を行っています。

(写真はこれまでに発行された登山史資料1・2です。)

ボランティアサークル

ボランティアサークルでは、定例的には第四日曜日に博物館での除草や清掃作業、山と博物館の封入作業などを行っています。

9月中旬までのその他の活動では、4月から5月にかけて博物館から信濃大町駅前にサクラソウを移動展示し、灌水等を行いました。自然観察会では居谷里湿原、針の木雪渓(慎太郎祭)、農具川での解説活動を行いました。本年は夏から秋にかけて行われた付属園まつりではスタンプラリーや写生大会の受付を、信濃大町山岳フェスティバルではクイズラリーの受付も行いました。



さらに、今年度に計画されている蝶の企画展に向けて、山博周辺での蝶の観察を行っていることも今年の活動の特徴といえます。

ボランティアには現在までに、延べ日数で約30日、延べで140人余りが活動をしています。

お知らせ

次年度事業としてご案内しました「座学 カクネ里氷河調査探検記（平成 28 年度友の会総会）平成 28 年 4 月 24 日（日）」ですが、ご案内の通り今年度天候不良等により調査が進みませんでしたので延期とさせていただき、内容を企画展「山小屋の変遷」に連動した講演会やギャラリートークに変更いたします。

ゆきつばき通信編集室より

年度も半ばになりました。友の会の各サークルの活動報告を中心に編集しました。また、一部省略してご紹介しています。山岳博物館のホームページの“友の会”“サークル活動紹介”に詳しく掲載されています。事業の報告はホームページとともに「山と博物館」もご覧ください。

来年度事業について、皆様のご意見ご希望をお寄せいただければと思います。「冬のライチョウを見る」は多くのリベンジ希望をいただいておりますが、事業経費も大きくなるためすぐには出来そうにありませんが、あきらめずに希望をお寄せください。発行が遅れています「ゆきつばき」につきましても原稿をお寄せいただければと思います。ただし、通信での掲載になる可能性も含みおきください。

(丸山卓哉)

ゆきつばき通信 第 166 号

発行／大町山岳博物館友の会 平成 27 年 9 月 27 日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

会費振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会

山博ページ <http://www.omachi-sanpaku.com/>

友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています